



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

7月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

信じる力

関東地方は例年よりも遅めの梅雨入りということですが、5月から雨の多い日が続いていました。梅雨らしい天気が続くと、雨の日は外で遊べないので、子どもたちにとっては雨よりも晴れの日のほうがうれしい様子です。

先日、曇り空からついに大粒の雨が降ってきて昼食後の外遊びは難しいな、と思っていましたら、年長児の保育室の方からやけに大きく歌声が響いてきました。何かとしてみると、テラスに出た年長児が雨降る空に向かって「虹のむこうに」という歌を大きな声で歌っていました。担任に聞くと、子どもたちから「歌おう！」と言って歌い始めたとのことでした。歌っているうちになんと雨が小止みになってきて、子どもたちはうれしそうに「やっぱりね！」と言いつつ合っていたそうです。5月の大雨の日に、雨空に向かって「虹のむこうに」を歌い、楽器も持ち出して演奏して雨が上がった体験が、6月のそのときの姿に繋がったものと思います。

きっと子どもたちは「私たちが空に向かって、晴れることを願いながら歌うと雨が止む！」と信じて行動したのだと思います。これは幼い思いかもしれませんが、自分の力を信じられるのはとても素敵なことです。

歌えば晴れる、は大人にとっては偶然ということになるのでしょうかけれど、自分の、自分たちの力を信じられる！と思う意識が心に残ってほしいと思います。晴れることを信じて歌うのは、そうありがたい自分を信じるということでもあり、そのために自分で行動を起こす、ということでもあります。

子どもたちは自分が考えたことを、自分で行動しながら確かめたり、やり直したり、工夫したりして実現していきます。今の時代に求められるのは、自分で考え、判断し、行動する力を身に付けて成長していくことです。子どもには、大人からの助言や支えが必要ですが、結果を自分で引き受け、さらに大きく育てていく力を信じたいと思います。子どもは大人の思ったようには育ちませんが、子ども自身が思ったように育つ力を信じたいですね。さくらだこども園では、予測困難な時代を生きていく子どもたちに、自分を信じる力を育みたいと考えています。

今年の夏の体験が、子どもたちのよさを見付ける時間になりますように。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉・着替えや所持品の始末などを、保育者に見守られながら自分でしようとする。
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・色水や泥遊びなどの様々な水遊びをする中で、水に触れる心地よさや面白さを感じる。
- 〈4歳児〉・友達や保育者と一緒に様々な水遊びやプールでの遊びを楽しみ、心地よさや面白さを感じる。
 - ・着替えや水分補給など夏の生活に必要なことに気付き、自分なりに取り組もうとする。
 - ・夏の自然現象や変化に興味や関心をもったり、栽培物の生長や収穫を喜んだりする。
- 〈5歳児〉・自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いにも耳を傾けたりしながら、友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じる。
 - ・水の感触の気持ちよさを感じ、水の中でいろいろな動きを楽しみながら、水の特性に気付いたり、興味をもったことを試したりする。

<お願い>

登降園時、通用門を利用される方は、必ず鍵をかけてダイヤルも回しておくようにしてください。

正門から出られる方は、必ず掛け金をかけてください。安全管理上、ご協力をお願いいたします。

